

ラヤリグモはササ藪の根元で採集された。京都府および岡山県ではタテスジャリグモ *R. hyrcana* (Logunov & Marusik, 1990) も同様な生息環境であり、一般に草原の根元で見られる。それに対して、ヤリグモ *R. sagana* (Dönitz & Strand, 1906) とヒゲ

ナガヤリグモ *R. labiata* (Zhu & Song, 1991) は樹上性である。八重山ではタニカワヤリグモ *R. tanikawai* Yoshida, 2001, ヒゲナガヤリグモおよびタテスジャリグモは樹枝間で採集された。

訃報 Obituary

森川國康先生 (1919–2009)



日本のクマムシ、カニムシ、土壌性ダニの分類などに先鞭をつけられ、日本蜘蛛学会との関わりも深かった森川國康先生が2009年5月13日に89歳で亡くなられた。

森川先生は、1919年(大正8年)11月27日に、愛媛県松山市の名産として民謡「伊予節」にも唄われている「五色そうめん」を製造している森川本舗のご長男としてご出生、松山中学(現在、

松山東高校)に学ばれた。中学卒業後、愛媛県師範学校、広島高等師範学校、広島文理科大学に進み、1946年9月の卒業後すぐ、香川師範学校(現在、香川大学教育学部)に勤務された。その後、母校の松山中学を経て1950年には愛媛大学文理学部(現在理学部)に移られた。

森川先生の最初の論文は1951年の1新種1新型を含む四国産のクマムシ4種の記載論文で、これは愛媛大学に移られたあとの32才のときなので、論文デビューという点ではやや遅咲きである。しかし、この後、50年代から60年代にかけて、ものすごい勢いで、クマムシやカニムシの分類や生態に関して多量の論文を書かれ、これまで日本人研究者がまったく手をつけていなかったこれらの2つの分類群の日本におけるファウナの概要を一気に明らかにされた。新種として記載されたカニムシは国外産の数種を含め約40種(亜種を含めると60ちかく)である(亜種のなかには現在は種に昇格させられているものなどもあり正確な数字の表示が難しい)。これまでに確認されている日本産のカニムシは約60種であるので、じつにその半数以上が森川先生による記載種であり、また全体の8割近くまでが森川先生の手で解明されたものである。カニムシの最初の論文が出たのは1952年だが、着手は広島時代の1944年に遡るようで、原爆で亡くなられた故佐藤井岐雄博士(当時広島文理科大学の助教授)からの薦めだったことが、北海道大学に提出された学位論文(Morikawa 1960)の謝辞に書かれている。故佐藤博士はサンショウウオの分類研究で著名であるが、クモガタ類

にも特別な嗜好をもっていた方で、サソリやサソリモドキの細胞遺伝学的研究や、ザトウムシの分類研究(これは当時学生だった鈴木正将博士との共同研究として開始)も手がけられていた。

森川先生の未開拓分類群の研究開拓者としての顔は、クマムシとカニムシにとどまっていない。皮切りは和歌山県田辺湾の神島(かしま:貴重植物の多い南方熊楠ゆかりの特別天然記念物の島として著名)の陸生動物相のリスト論文(Morikawa 1957)で、青木淳一先生(1973「土壌動物学」北隆館)によれば、これはツルグレン装置を使用した研究としては日本で最初の論文だとのことである。本論文に記録された226種のうち、ダニとカニムシが自身による同定であるが、ダニは全群にわたる16科24種が属レベルまで(当時、ダニ分類はまったく未開拓で種名までは同定されていない)、かつ外部形態で性が識別できる中気門、前気門ダニについては個体数も雌雄別に表記されている。これは青木淳一先生によるササラダニ類の最初の分類論文が出るより前であり、和名も今日使われているものとはかなり異なっている。すべてが森川先生ご自身の命名かどうかかわからないが、森川先生はこの論文で「イレコダニ」を「ハコガメダニ」と表記し、「ササラダニ」は「ヤマダニ」と呼んでいるようにみえる。また、松山市近辺の土壌動物群集を異なる植生で比較した1959年の論文(森川ら1959)では、定量(600cc)採集した土壌からツルグレン装置で抽出した動物のうちササラダニ類とトビムシについては個体数を種ごとにカウントしており、こちらも1960年代以降盛んにおこなわれるようになった土壌動物の群集研究の先駆けとなった。トビムシの同定は吉井良三博士にお願いしているが、ササラダニの同定(カウントは種単位であるが、種名までは未決定)は自力である。つまり、土壌性のダニ類の分類の開拓を次のターゲットにしようとしていたことがこれらの論文に垣間見える。しかし、相前後してササラダニについては青木淳一先生がものすごい勢いで研究を開始されたのを察知されてか、ササラダニには進まず、それ以外の群、とくに前気門類(ケダニ類)とササラダニに次いで種数の多い中気門類(トゲダニ類)の分類に着手された。これら中気門と前気門のダニの研究は、当時勤務されていた愛媛大学文理学部で森川先生のもとで卒論としてそれぞれ研究を開始された石川和男、芝実の両先生によりその後大幅に発展させられたことは周知のとおりである。

クモ学会関係者あるいは土壌動物学会関係者の間で知られている森川先生の研究業績はおそらく以上のようなものだろうと思われるが、じつは、これらの広範な分類群にわたる研究と並行して、さらにハエ、ブユ、ヌカカ、フィラリア媒介蚊、ドブ

ネズミの大発生などの衛生動物関係の論文も、衛生動物、Kontyū, 寄生虫学雑誌, 哺乳類科学などの専門学会誌に多く書いておられる。また、愛媛県内の自然公園指定などに関わる動植物相調査にも早くから深く関わられた。

これらの研究は、1964年春に開学した松山東雲女子短期大学に教授として愛媛大学から同年に移られて以後も継続されていたが、しだいに愛媛県内の自然環境調査や自然保護行政関連の仕事の比重が高まり、ご自身は分類研究の第一線から離れられたことが惜まれる。しかし、これは松山東雲女子短期大学で長年にわたって就かれた学長や学園長などの要職でご多忙だったということに加え、愛媛県や四国の動植物相を通暁されていた森川先生に、その方面での指導的役割を周囲が自然に期待したことなので仕方がなかったことなのだろう。

じつは私も、愛媛県出身者としてその恩恵に浴した一人で、地元の出版物として1975年に出版された先生のご著書「愛媛の自然」(愛媛文化双書刊行会, 松山市, 186 pp)をはじめとして、森川先生が書かれた愛媛県や四国の自然についての数多くの概説やガイドブックから多くのことを学んだ。いっぽう、クモガタ類研究者としての森川先生から受けた影響も多大で、私が日本蜘蛛学会(当時、東亜蜘蛛学会)に中学2年のときに入会して最初に受け取った *Atypus* 誌(49/50 合併号で岸田久吉博士追悼号だった)に載っていた森川先生のエッセイは繰返し読んだ。また、私が高校2年のときに出た前述の青木淳一先生の「土壌動物学」には、森川先生が土壌動物の分類の開拓者として写真入りで大きく紹介されていた。身近にこのような大家の先生がいるということに心が躍ったものである。私の通っていた高校に私が高3の春に転動してこられてすぐ生物部の顧問となった上窪田康義先生は植物の名前に非常に詳しい先生で私は植物の名前をずいぶんたくさん教わったが、私が部活でザトウムシを調べていたことから夏休みのあるときに、急に森川先生のところに行ってみてもらおうと言われて道後公園の近くにあった森川先生のお宅に連れて行っていただいたこともあった。植物が専門の上窪田先生が森川先生にどのような接点を持っておられたのか当時の私は知らず、いきなりお宅にお邪魔などして大丈夫なのかと少し心配したが、上窪田先生は森川先生や石川和男先生と親しく、山行きなどによくご一緒されていたということを石川先生から伺ったのはつい最近のことである。私が学生・院生時代に森川先生に直接にお会いしたのはこの1度だけだったが、広島大学への進学(これで高校、大学とも私は森川先生と同窓ということになった)や研究テーマ選びには根本のところ強い影響を受けたように思う。じつは私は、北大の大学院に進学した際、ある事情により一時クマムシの研究を志したこともある。この仕事は結局、海産のクマムシ1種の記載論文を出したのみで終わったが、この動物群を選んだのは間違いなく森川先生の仕事に親しんでいたからである。

さいごにイヨグモのことについてふれておきたい。愛媛県の動植物に通暁されていた森川先生にとって、1913年に愛媛県の大洲市で採集されて以後、県内から一度も記録がないが(ご存じのように他県の記録も数えるほどしかない)、「伊予」の名前を冠するこのクモは気にかかる存在だったようで、私が初め

て目にした前述 *Atypus* 誌上の随想をはじめ、おりにふれこのクモのことを書かれている。森川先生は、まぼろしとされている本種の原記載論文の校正ゲラ(「まぼろし」という所以はゲラがあるのに出版された形跡がないらしいことによる)のコピーをお持ちで、後年私はこのコピーを森川先生からいただいた。私にとっても当然気にかかるクモだったが、本種に私は昨年末に初めてこの鳥取の地で出合った。残念ながら生きた個体ではなく、古文書にくっついた脱皮殻だったが実体顕微鏡でのぞいて一目で本種だとわかったのは、やはりずっと気にかかっていたクモだったからであろう。詳細については別に報告を準備中であるが、このことをいまとなっては森川先生に直接ご報告できないことがとても残念である。なお、現在このクモは北米で記載された *Prodidomus rufus* Hentz 1847 と同種とされているが、北米でも非常に希少な種であることに変わりはない。

謝辞: 松山東雲女子大学名誉教授の石川和男先生には、森川先生の未公表の業績目録やご経歴の資料、写真の入手などに全面的にご援助いただきました。また写真(1983年の学長就任の直後頃)は石川先生をつうじてご遺族から拝借したものです。厚く御礼申し上げます。

略歴

- 1919年11月27日生まれ,
- 1939年3月 愛媛県師範学校本科第2部卒業
- 1943年9月 広島高等師範学校理科第3部3年修了
- 1946年9月 広島文理科大学生物学科動物学専攻卒業
- 1946年9月 香川師範学校文部教官
- 1947年9月 愛媛県立松山中学校教諭
- 1950年3月 愛媛大学文理学部講師
- 1954年12月 愛媛大学文理学部助教授
- 1960年6月 理学博士(北海道大学)
- 1963年12月 松山東雲短期大学教授
- 1983年1月 松山東雲短期大学学長(1999年まで)
- 1986年4月 松山東雲学園長(2001年3月まで; 1999年まで学長と兼任)
- 2009年5月13日ご逝去(89歳)

森川先生主要著作(クモガタ類とクマムシ関係の主要なもののみ。年号順)

Chronological list of articles written by Kuniyasu Morikawa (those on Arachnida and Tardigrada alone, selected)

Morikawa, K. (1951) Notes on four interesting *Echiniscus* (Tardigrada) from Japan. *Annotationes Zoologicae Japonenses*, 24: 108-110.

森川国康(1951)海棲クマムシの採集。採集と飼育13: 170-172.

Morikawa, K. (1952a) Three new species of false-scorpiones from the Island of Marcus in the West Pacific Ocean. *Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.)*, 1: 241-248.

Morikawa, K. (1952b) Notes on the Japanese Pseudoscorpiones I.

- Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 1: 249-258.
- Morikawa, K. (1953a) Notes on Japanese Pseudoscorpiones II. Family Cheiridiidae. Atemnidae and Chernetidae. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 1: 345-354.
- 森川国康 (1953b) 日本未記録科 Olpiidae に属する一新擬蠍について. 動物学雑誌, 62: 327-328.
- Morikawa, K. (1954a) Two new species of Chthoniinea from Japan. Japanese Journal of Zoology, 11: 329-331.
- Morikawa, K. (1954b) Notes on Japanese Pseudoscorpiones III. Family Cheliferidae. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.) 2: 71-77.
- Morikawa, K. (1954c) On some Pseudoscorpiones in Japanese Lime-Grottoes. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 2: 79-87.
- Morikawa, K. (1955) Ecological and some biological notes on Japanese Pseudoscorpiones. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 4: 412-435.
- Morikawa, K. (1955) Pseudoscorpions of forest soil in Shikoku. Mem. Ehime Univ. Sec. II (Sci.), Ser. B (Biol.), 2: 215-222.
- 森川国康 (1955) 日本産擬蠍類の (Garypidae) 新属種. 動物学雑誌, 64: 225-228.
- Morikawa, K. (1956) Cave Pseudoscorpiones of Japan (I). Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 2: 271-282.
- Morikawa, K. (1957a) Cave Pseudoscorpiones of Japan (II). Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 2: 357-365.
- Morikawa, K. (1957b) Terrestrial fauna of Kashima Islets in the Bay of Tanabe, Wakayama Prefecture. Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, 6: 225-240.
- 森川国康 (1957) Chelifelidae の一新種 *Kashimachelifer cinnamomeus*. 動物学雑誌, 66: 399-402.
- 森川国康 (1957) 緩歩類 Tardigrada の分布と系統. Atypus, No. 12, pp. 3-11.
- Morikawa, K. (1958) Notes on Japanese Pseudoscorpiones III. Family Cheliferidae. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 3: 5-11.
- Morikawa, K. (1958) Maritime Pseudoscorpiones from Japan. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 3: 5-11.
- 森川国康 (1959) 洞窟内外の土壤中におけるダニ相の一端. Acta Arachnologica, 16: 25-29.
- 森川国康・大上正善・松本礼三枝 (1959) 異植生土壤における地中微動物の群集構成について. 日本生態学会誌, 9: 189-193.
- Morikawa, K. (1960) Systematic studies of Japanese Pseudoscorpions. Mem. Ehime Univ. Sec. II (Sci.), Ser. B (Biol.), 4: 85-172.
- 森川国康 (1960) くも類. pp. 88-95. In: 石原保 (編) 石鎚山系の自然と人文. 愛媛新聞社. 323 pp.
- Morikawa, K. (1962) Ecological and some biological notes on Japanese Pseudoscorpiones. Mem. Ehime Univ., Sec. II (Sci.), Ser B (Biol.), 4: 412-435.
- Morikawa, K. (1962) Notes on some tardigrada from the Antarctic region. Biological Results of the Japanese Antarctic Research Expedition. Special Publications from the Seto Marine Biological Laboratory, pp. 1-6, +pl. 1.
- 森川国康 (1962) 日本産カニムシ類の分類と採集法. Nature Study, 8 (9) : 2-5.
- 森川国康 (1962) 擬蠍類 (=カニムシ類) (Pseudoscorpiones). pp. 61-90. In: 動物系統分類学, 中山書店 (東京) 7 (中A), 803 pp.
- Morikawa, K. (1963) Pseudoscorpiones from Solomon and New Britain. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, No. 16, pp. 1-4.
- Morikawa, K. (1963) Terrestrial prostigmatic mites from Japan (I). Some new species of Eurpoidae and Phagidiidae. Acta Arachnologica, 18: 13-20.
- Morikawa, K. (1963) Terrestrial prostigmatic mites from Japan (II). On a Japanese *Erythraeus* species and the "Bochartia" larva. Mem. Ehime Univ. Sect. 2 (Sci.), Ser. B. (Biol.) 4: 563-572.
- 森川国康 (1965) イソトゲクマムシ-オニクマムシ. pp.329-331. In: 岡田 要ら (編) 新日本動物大図鑑 (中). 北隆館 (東京) 803 pp.
- 森川国康 (1965) 擬蠍目 (Pseudoscorpiones). pp. 342-346. In: 岡田 要ら (編) 新日本動物大図鑑 (中). 北隆館 (東京) 803 pp.
- Ishikawa, K. and Morikawa, K. (1964) On a new mite, *Acotyledon corporis* n. sp. found on a dead body. Reports of Research. Matsuyama Shinonome Girls School, 1: 41-46.
- 芝 実・森川国康 (1965) 地表性前気門ダニ集団の生態学的研究. 松山東雲短期大学研究論集, 2:
- Shiba, M. and Morikawa, K. (1966) Prostigmatic mites of from Japan. (2). Bdellidae I (Bdellinaem Cytinae, Spinibdellinae). Reports of Research Matsuyama Shinonome Girls School, 2 (2). 111-131.
- 森川国康 (1967) 緩歩動物門. pp. 295-333. In: 内田亨 (編) 動物系統分類学, 中山書店 (東京) Vol. 6, 359 pp.
- 森川国康 (1967) 土壤動物主要抽出法. Edaphologia, No. 1, pp. 17-25.
- Morikawa, K. (1968) On some Pseudoscorpions from Rolwaling Himal. Journal of the College of Arts and Sciences, Chiba University, 2: 259-263.
- 森川国康 (1969) イヨグモのこと, 学会改造論など. Atypus, Nos. 49/50, pp. 7-9.
- Morikawa, K. (1972) Pseudoscorpions from Mt. Poroshiri-dake of the Hidaka Mountain Range, northern Japan. Mem. Natn. Sci. Mus. Tokyo, No. 5, pp. 33-35.
- 鶴崎展巨 (鳥取大学地域学部)

Obituary: Dr. Kuniyasu Morikawa (1919-2009). By Nobuo Tsurusaki